

IPPNNWアジア大会

反核・平和こそが
いのちを守る基本
北東アジアの非核化へ向けて

耳原総合病院 平林 邦昭

9月13、14日にわたり、モンゴル・ウランバートル市で開催された、IPPNNW（核戦争防止国際医師会議）大会に参加してきました。10カ国、1000人余りの規模の国際大会となり、北朝鮮が初めて「国際協調、南北融和、さらに朝鮮半島の非核化」を宣言し、画期的な大会となりました。また今回私が代表となって、シベリア抑留・ウランバートル収容所の日本人墓地を訪れました。

日に開催されたシンポジウム「北東アジア非核地帯への拡大」でした。私も「北東アジア非核地帯に向けて日本の課題」で発言しました。その夜の懇親会では、ささやかではありましたが日朝の民間外交もできました。

モンゴルは冷戦期のソ連・中国の核実験場と接しており、アジアの中でいち早く「非核宣言地帯」を創設し、国連の核禁止条約にも積極的です。放射能と健康問題では広島・長崎の被爆者医療とともに、モンゴルの被爆者の現状も報告されました。



日本人墓地には、大会の公式ツアーを抜けて医師3人で計画・実行しました。左端の女性は、父親が戦後まもなくの大阪民医連；うえに病院の医師で、本人は77歳の現在まで長らくモンゴル在住で我々を案内してくれました。

日本人墓地訪問
終戦直後の57万5

千人のシベリア抑留者のうち、1万4千人がウランバートルへ送られ、その約1割が1945年冬に亡くなりました。
栄養失調と過酷な住居環境、労働状況のなかで亡くなったことは、ナチスの強制収容所を連想させます。私たち日本人が、決して風化させてはならない事実なのです。
反核平和は健康の基本、私たち一人一人の「不断の努力」が必要であることを、実感させられた大会となりました。



耳原鍼灸院

8月よりリニューアル移転しています

受付時間

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~11:30	●	●	●	●	●	●
午後 13:30~15:30	●	●	●	—	●	●
15:30~17:00	訪問鍼灸				訪問鍼灸	
夜間 17:00~19:30	—	●	—	—	—	—

同仁会グループ新年集会のお知らせ

◆日時 2019年1月12日(土) 14時~17時

◆場所 堺市立西文化会館 「ウエスティ」大ホール

異文化コミュニケーションカンファレンス

イラクの現状、なぜ医療支援を行うのか？戦争が身近にない日本人とともに考えたい。

日 程 2019年1月17日(木) 18時~20時半

場 所 みみはらホール

講演者 高遠菜穂子さん

共催：異文化コミュニケーションカンファレンス実行委員会 耳原医学生委員会

医学生・どなたでも歓迎します

高遠菜穂子（たかとお・なほこ）イラク支援ボランティア。エイドワーカー（人道支援者）。1970年、北海道生まれ。2000年インドの「マザーテレサの家」、2001年からタイ、カンボジアのエイズホスピスでボランティア活動に専念。2003年5月からイラクでの活動開始。2004年4月にイラク・ファルージャで現地武装勢力に拘束された。解放後、日本国内で「自己責任」パッシングを受ける。現在もイラク人道・医療支援活動を継続中。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」呼びかけ人。

シリーズ 現場からの視点 その42

災害時こそ連携の力で在宅での医療・介護を守ろう

~みみはらファミリークリニックのとりくみ~

現在、南海トラフ地震の発生確率はこの30年以内に80%とも予測されており、この4月だけでも、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨災害、そして9月には超大型の台風21号、24号の到来と相次ぐ自然災害が発生しました。

いつ起こるかかわからない大規模災害への備えは喫緊の課題です。特に、医療・介護に携わっている同仁会各事業所には地域医療を支える使命があります。そのために数年前から「事業継続計画（BCP）」に取り組み、災害時体制や災害対応マニュアルなどの整備をすすめているところです。

今号では、在宅で医療・介護を受けておられる方の災害時の対応について、みみはらファミリークリニックでの取り組みをご紹介します。

◆ ◆

ファミリークリニックの在宅管理患者さんの中には、介護度5で寝たきりの方や気管切開をされて痰の吸引が必要

な方など、3人の方が大和川近くにお住まいでした。6月の豪雨の際は河川の氾濫の恐れがあったため、クリニックから安否確認の連絡を入れ、不安を感じておられたおひとりの避難を同仁会グループのサービスマン（サ高住）の家に「蔵前」（サ高住）に、急ぎよ受け入れていただけました。

異常気象による災害が発生するたびに、「停電が長引いたらどうしよう」「在宅管理の患者さんを守るためには？」などの課題が明らかになってくるなか、在宅での点滴や褥瘡、胃瘻、酸素吸入などの医療処置が必要な「緊急時リスク」の高い患者さんや独居などが一目でわかるように管理リストを作成しました。

また、実際に災害が起こった際には、クリニックだけの力で医療を維持することは困難です。調剤薬局やサ高住、友の会なども連携できるよう、北区エリア内での協議をすすめています。

（ファミリークリニック 看護師長 山尾真貴子）